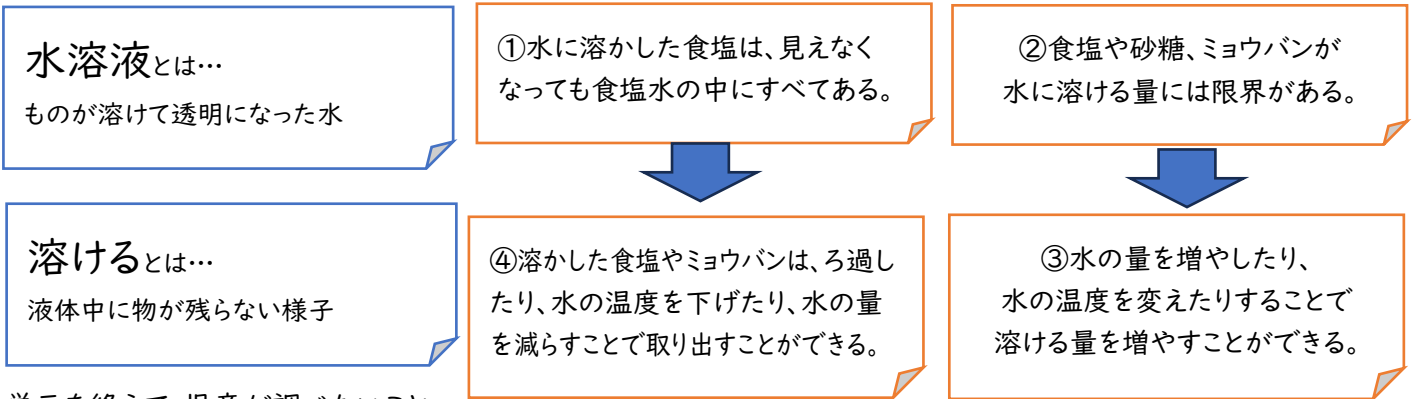


# 第5学年 学習構造案 (理科 もののとけ方)

令和5年11月29日(水)5校時 理科室 5年3組32名 担当教諭 山本 佳花

既習事項から



単元を終えて、児童が調べたいこと

- 1班 みんなが持ち寄った粉類は、溶かすと水溶液になるのか。
- 2班 コーラやサイダーの中にある砂糖は取り出すことはできるのか。
- 3班 水の温度によって砂糖のとける量は変わるのか
- 4班 砂糖はたくさん溶けるから、時間内に限界が分からなかった。限界はあるのか。
- 5班 塩コショウのように、同時に2つのものは溶けるのか。また取り出すときには2つ同時に出てくるのか。
- 6班 限界まで食塩を溶かした食塩水に砂糖は溶けるのか。
- 7班 甘いジュースやガムシロップにさらに砂糖は溶かすことができるのか。
- 8班 水を炭酸水に替えても物質のとける量に違いはあるのか。

本時の課題(学級共通) もののとけ方の単元で学んだことをもとに、自分の調べたいことを実験しよう!

本時の活動 グループごとに設定した問題やそれに対する予想、実験方法を基に実験を行う。

時間	学習活動
5分	目的・テーマ・流れの確認
20分	実験)グループごと
10分	考察)一人で5分、グループで5分 (まとめボード作成)
5分	周囲の班の回覧
5分	まとめボードをもとに学級で共有

- 指導のポイント
- ① 児童が自ら考えた問題に対し、主体的な態度で課題に取り組めるよう支援する。
  - ② 学習内容を生活と結び付けて考察をすることができるよう支援する。

評価 主体的に取り組む態度(ワークシート・発言)

- ① もののとけ方についての物事や現象を、他者と関わりながら問題解決しようとしている。
- ② もののとけ方について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

授業観察の視点 児童が主語になる授業が展開できていたか。